

## 2-4 リハビリテーションでの達成動機が自己効力感や絶望感に与える影響

○佐野 伸之<sup>1)2)</sup>, 京極 真<sup>3)</sup>

1)吉備国際大学大学院保健科学研究科博士課程

2)株式会社アール・ケア, 3)吉備国際大学大学院保健科学研究科

**【導入】** リハビリテーション（以下、リハ）にクライアントが積極的に取り組むには、自信を高めることや絶望した状況に陥るのを防ぐことが重要であるが、リハ領域で達成動機と自己効力感や絶望感との関連は明らかとなっていない。

**【目的】** 地域在住高齢者の達成動機と自己効力感や絶望感との関係性を明らかにする。

**【方法】** 外来リハや通所リハを受ける 584 名（76.4±9.1 歳）に、質問紙調査を実施した。分析は達成動機（Scale for Achievement Motive in Rehabilitation ; SAMR）、自己効力感（General Self-Efficacy Scale ; GSES）、絶望感（Hopelessness Scale ; HS）との相関係数の算出と、構造方程式モデリングによる因果関係の検証を行った。

**【結果】** SAMR の合計得点は GSES の合計得点や行動の積極性と能力の社会的位置づけの 2 つの因子得点、HS と有意な相関（0.37, 0.25, 0.23, -0.20）が認められた。SAMR の自己研鑽的因子の得点とも有意な相関（0.40, 0.27, 0.24, -0.23）が認められた。因果関係は達成動機から自己効力感へ正の影響（0.48）、絶望感へ負の影響（-0.26）が確認された。

**【結論】** リハ領域では達成動機への介入によって、自己効力感を高めることや絶望した状態を防ぐことへの効果が期待できる。